

『Mind Charging』

第2回 発行：入試広報室 発行日：令和2年4月15日

渋沢栄一の名言



できるだけ多くの人に、できるだけ多くの幸福を
与えるよう行動するのが、我々の義務である。

不要不急の外出は避けなければいけない中、人との関わりが極端に減ったと感じている人も少なくないと思います。でも、私たちには先人が残してくださったテクノロジーのおかげで会わなくても人との関わりを持つことができますし、家族と今まで以上に時間を共有することができます。

私たちには『力』があります。『力』と言われても大げさに考える必要はありません。重たいものを持ち上げる時や、人々を感動させるほどの大きなことを成し遂げることだけが『力』ではありません。『いただきます！』『ごちそうさま！』と伝えることで喜びを与えられます。『僕(私)は元気だよ！』と本来は毎日顔を合わせていたはずのクラスメイトや中学時代の友達に連絡をする。それだけで相手は癒され、幸福を与えることができます。人間が持つ『力』は自覚している以上に大きく、多種多様なものです。

だからこそ、心のこもったみなさんの持つ『力』を使って、どうしても暗い気持ちになりがちな現状を打破していけたらと思います。ポジティブな気持ちを持つことまで自粛しない正智深谷高等学校でありたいものです。

(編集委員：入試広報室 鈴木)

渋沢 栄一(しぶさわ えいいち、旧字体:澁澤 榮一、天保11年2月13日(1840年3月16日) - 昭和6年(1931年)11月11日)は、日本の武士、官僚、実業家、慈善家。位階勲等爵位は、正二位勲一等子爵。雅号は青淵(せいえん)。江戸時代末期に農民(名主身分)から武士(幕臣)に取り立てられ、明治政府では、大蔵少輔事務取扱となり、大蔵大輔、井上馨の下で財政政策を行った。退官後は実業家に転じ、第一国立銀行や理化学研究所、東京証券取引所といった多種多様な会社の設立、経営に関わり、二松學舎第3代舎長(現、二松学舎大学)を務めた他、商法講習所(現、一橋大学)、大倉商業学校(現、東京経済大学の設立にも尽力し、それらの功績を元に「日本資本主義の父」と称される。また、論語を通じた経営哲学でも広く知られている。令和6年(2024年)より新紙幣一万円札の顔となる。また、令和3年(2021年)に渋沢栄一を主人公としたNHK大河ドラマ「青天を衝け」が放送される予定。(Wikipedia 参照)